

※開催概要について

この資料は、勉強会の議論の状況を迅速に伝えるために、ファシリテーターがグループ討議の概要を発表した内容等をファシリテーター及び事務局がまとめて整理したものです。個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。

沼津高架 PI プロジェクト

勉強会<合同>第5回(8/31)開催概要

8月31日(土)に勉強会<合同>第5回が開催され、沼津駅周辺地区及び原地区から38名のメンバー(うち、代理人6名)が参加しました。冒頭、8月18日(日)の第10回PI委員会において、ステップ3及び4のプロセスが概ね承認された旨、事務局から報告がありました。続いて、ファシリテーターの運営のもと、ステップ5比較評価の検討が行われました。まず、当日の検討の目的は、詳細に比較評価する代替案の確認、各評価項目を使った比較評価結果(案)の確認、そして、各代替案のメリットを活かしデメリットを克服するために今後必要となる方策についてのアイデア出しの3点とされました。また、勉強会の運営に関して、個人を誹謗中傷する発言は決して行わないこと、グループ検討では意見と評価項目との関係を十分に確認して進めることなどが参加者やグループファシリテーターに対して要望されました。

事務局からの資料説明の後、参加者から、広域的な代替素案「貨物駅を近傍駅に統合する場合(広域C案)」の実現性やPIにおける沼津駅周辺地区の検討テーマについて質問があり、PIプロジェクトでは沼津駅周辺地区や原地区の地域づくりについて考え得る案を予断なく検討し、鉄道高架事業等の意思決定のための判断材料とするプロセスであることがファシリテーター及び事務局から改めて説明されました。

グループ検討では、まず、比較評価の検討が煩雑になりすぎないようにすることを目的として、事務局の提案した7つの代替案(代替案2、4、7、9、10、12、13)を詳細に比較することが概ね確認されました。

次に、この7案について、主な評価項目に沿った比較評価結果の案について検討が行われました。まず、数値データや算出根拠の妥当性に対する懸念が示され、用語の統一や分かりやすい説明、詳細な説明資料の公開が要望されました。一方で、指標や評価方法の妥当性を検証するのは専門家に委ね、勉強会では地域づくりの具体化に向けた議論を望む意見もありました。

次に、広域的な視点からの比較評価については、将来に向けた効果の大きさ(評価項目R5)の重要性が強調されたほか、拠点地域としての人口集積等(R1)の算出方法の妥当性や市の財政状況の健全性(R8に関連)に対する懸念などが示されました。

沼津駅周辺地区の評価項目を使った比較評価については、総合整備事業を行う代替案2、4、7は、まちの基礎となる面的整備を行うことで駅前にまとまった公共空間を確保できる点がメリット・可能性だとして期待が示された一方で、ハード整備が必ず人口集積につながるかは疑問だとし、いずれの案についても、市民や民間の努力が必要であり今後も引き続き議論を継続したいとの提案がありました。また、駅500m圏内、1km圏内といった評価指標の根拠を明確にすることが要望されました。

原地区の評価項目を使った比較評価については、各案の実現性(H1-1)に関連し、いずれの案であっても、原地区の地域づくりには沼津市の関与が必要であり、各案の具体的な検討を継続することが要望されました。また、原地区はハード整備が不足しているとして、道路基盤整備による交通容量の確保(H3-3)の重要性が強調されたほか、貨物駅の物流機能を活用する代替案2については、住環境への影響、景観破壊、騒音が懸念された一方で、若い世代の雇用創出の可能性が期待されています。

最後に、PI委員会から助言・評価があり、目加田委員からは、長時間の熱心な議論に対する評価があった上で、目指す地域像は共有できたがステップ5に入り意見が一致しにくい局面を迎え、本質的な意見の違いが垣間見られたとして、ステップ5における勉強会の検討時間の不足が懸念されました。また、数値的なデータへの疑問点について出来る範囲で回答をするよう指摘されました。寺部委員からは、グループ討議の時間を長く確保できたことに対する評価と、参加者に対して資料に沿って議論を進めるよう要望がありました。

次回9月14日(土)は、引き続き沼津駅周辺地区と原地区合同の勉強会<合同>第6回が開催される予定です。